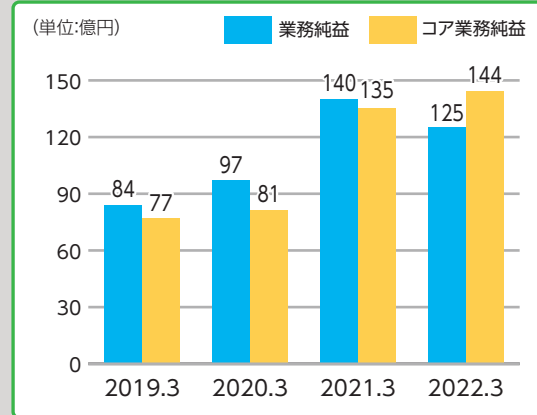


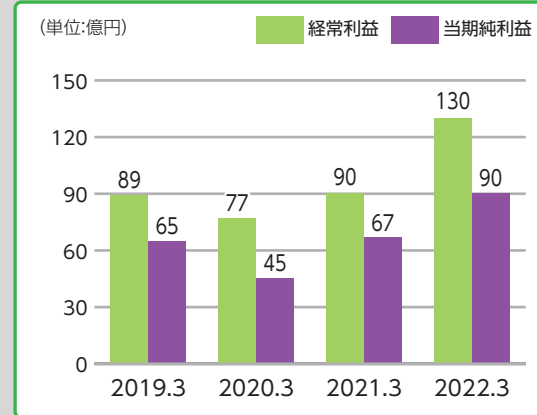
① 業務純益<sup>(※1)</sup>・コア業務純益<sup>(※2)</sup>(単体)

利益は一定の水準を維持しておりますが、より強い収益体質の構築を目指していきます。



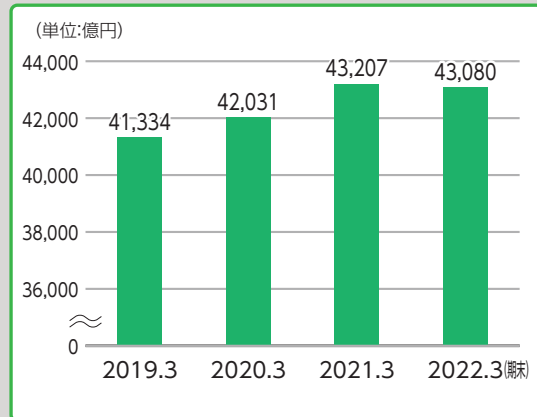
② 経常利益・当期純利益(単体)

利益は一定の水準を維持しておりますが、より強い収益体質の構築を目指していきます。



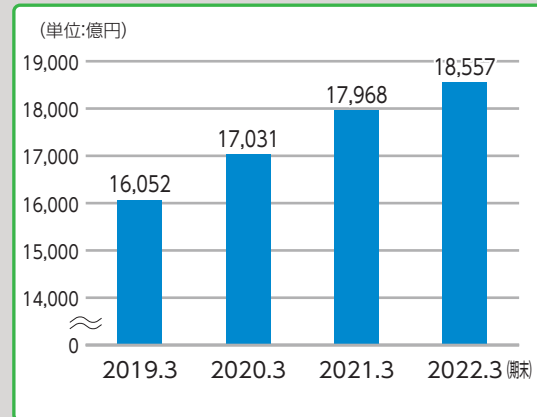
③ 貸出金残高(住宅ローン残高を含む)

銀行収益のもっとも大きな柱となる貸出金は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて急増した資金需要が一巡したことなどにより、2022年3月期末残高は4兆3,080億円となりました。



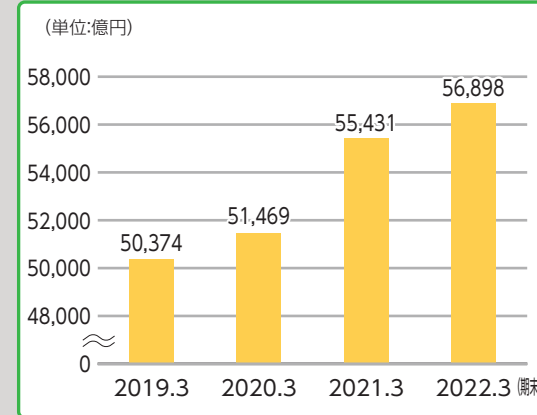
④ 住宅ローン残高

皆さまのマイホーム取得などを積極的に応援し、2022年3月期末残高は1兆8,557億円と好調に推移しました。



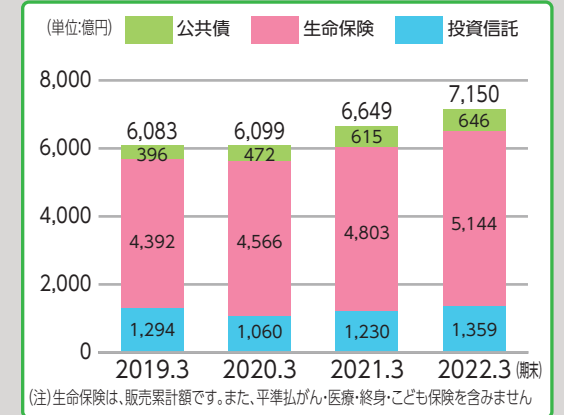
⑤ 預金残高(譲渡性預金を含まず)

個人預金を中心に順調に残高が増加。2022年3月期中1,467億円増加して、期末残高は5兆6,898億円となりました。



⑥ 預り資産残高

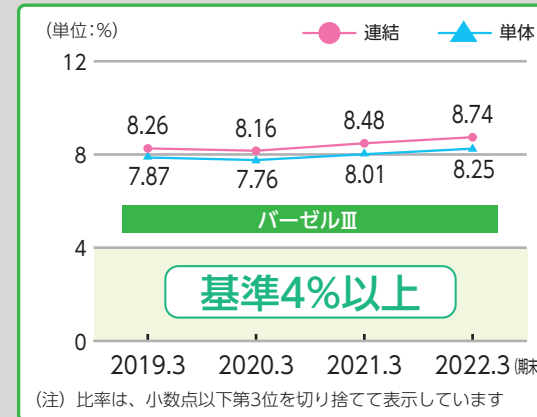
投資信託や保険など幅広く商品をご用意して、お客さまの資産づくりを応援しています。2022年3月期末残高は7,150億円となりました。



(注) ①～⑥のグラフの記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しています

⑦ 自己資本比率<sup>(※3)</sup>(国内基準)

2022年3月期末の自己資本比率は、連結で8.74%、単体で8.25%となり、国内基準の4%を大きく上回る水準を維持しています。

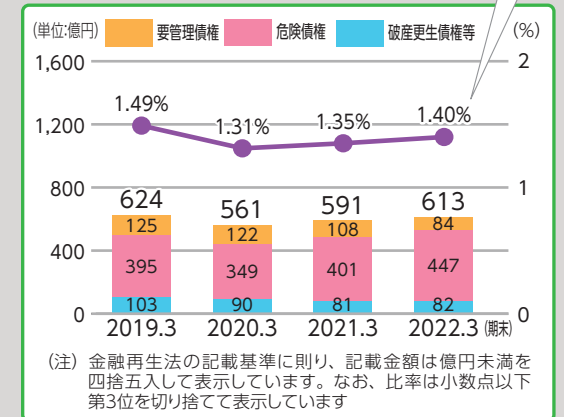


(注) 比率は、小数点以下第3位を切り捨てて表示しています

⑧ 不良債権

お客さまを応援しながら減少に努めています。経営革新サポートセンターを中心とした事業再生による改善も進めています。

不良債権比率  
貸出金などに占める不良債権の比率です。



(注) 金融再生法の記載基準に則り、記載金額は億円未満を四捨五入して表示しています。なお、比率は小数点以下第3位を切り捨てて表示しています

※1 業務純益 預金や融資など銀行本来の営業活動から得られた利益を示す銀行業特有の指標です。

※2 コア業務純益 業務純益から国債等債券損益や一般貸倒引当金繰入額を控除した利益です。

※3 自己資本比率 金融機関の健全性や安定性を示す指標として用いられます。

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本額(コア資本に係る基礎項目の額 - コア資本に係る調整項目の額)}}{\text{リスク・アセット等}} \times 100$$

\*リスク・アセット等：銀行資産の種類ごとにリスクウェイトを乗じた金額とオペレーショナルリスク相当額の合計